

## 第5・6学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月15日(金)5校時  
児童 5年 男6名 女3名 計9名  
6年 男5名 女2名 計7名  
授業者 教諭 藤根 薫

### 1 単元名 心の通い合いを読み取ろう

(光村 五下)

### 2 教材名 「わらぐつの中の神様」

(杉 みき子)

### 3 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、登場人物の人柄や心の動きを読み取り、感想を深めることを主なねらいとしている。特に作品に描かれている人々の心の通い合いを読み取りながら、作品をより深く味わわせていくことが学習の中心となる。

本教材は、雪国を舞台にした作品である。構成は、現在のマサエの家庭の話の間に、おばあちゃんの思い出話が入った、現在、過去、現在の三つの場面からなり、これが巧みに絡み合っ

て展開されている。作品の主題は、わらぐつを通して具体的に描かれた人物の心の通い合いである。作品の構成を押さえながら、主人公マサエに同化させ、祖父母の生き方を通して変容するマサエの視点に立って読み取ることで、主題に迫ることができると思われる。

#### (2) 児童について

子どもたちは、これまで「新しい友達」で部分視写や書き込みを通して、心情を読み取り作品を味わう学習をしてきた。「プラムクリークの土手で/宇宙を見たよ」で心に残ったことを書いて話し合い、読書の楽しさや広がりを感じ、自分の考えや感想を伝え合う学習をしてきた。

これらの学習を通して、文章や語句にこだわりながら内容を把握し、徐々に自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度は育ってきている。

しかし、文章や語句に対して書き込みが不十分であったり、まとめでは、叙述から読み取った内容が書かれていなかったりしているので、根拠を明らかにしながら自分の考えを書き込み、お互いの考えや感じ方を深め、それをもとに自分の考えをまとめられるようにしていきたい。

### 1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう

(光村 六下)

### 2 教材名 「海の命」

(立松 和平)

### 3 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、登場人物の生き方や考え方を場面展開や心情変化から読み取り、子どもが作品の主題を自分なりにとらえることをねらいとしている。

本教材は、大自然の海を舞台に主人公の成長の姿が描かれている。起承転結がはっきりした構成になっており、この構成をとらえることによって、作品の山場、主題が読み取りやすい。

作品の主題は、太一の様々な人間とのかかわりを通して成長していく姿と自然と人間との共生の大切さである。太一の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの成長の過程に沿って、太一の行動や心情の変化を読み取ることで、主題に迫ることができると思われる。

#### (2) 児童について

子どもたちは、これまで「森へ」で筆者の心情や情景について、描写などの優れた叙述を味わいながら読み取る学習をしてきた。「やまなし」では、賢治の独特な表現からイメージをふくらませて読み、作者への興味を高め、教材文から自分なりの読書へと興味を広げる学習をしてきた。

これらの学習を通して、優れた叙述を読み味わい、文章や語句から想像しながら読み深めていく方法は身につけてきている。

しかし、自分で読みを深めるための視点を持ち、自分が選んだ方法で作品を自力で読み深めることについては、十分とはいえない。そこで、読みの視点をしっかり与え、読み取りの力を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

そこで、指導にあたっては、心の通い合いを中心にして読ませるために、会話や情景描写による豊かな心情表現を丁寧にたどり、登場人物の思いを中心に、様子や心情を考えさせながら読ませていきたい。

書く活動では、読みの視点を与え、登場人物の人柄や気持ち、情景が表現されている部分にサイドラインを引き、大事な言葉を抜き出しながら、自分の思いや考えを書き込ませていきたい。

また、構成や叙述の工夫を考えながら、人物の心が通い合っていく様子を読み取っていき、その結果として主題についても考えることができるようにしていきたい。

4 単元の目標

登場人物の人柄や心の動きを読み取り、感想を深める。

5 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

- ・文章から心に残る言葉や心の温まる場所を楽しんで見つけようとする。

【書くこと】

- ・文章を読む人に分かるように言葉の使い方を考えたり、自分の考えを効果的に書いたりする。

【読むこと】

- ・登場人物の人柄や情景を叙述に即して読んだり、おみつさんや大工さんの考え方を読み取ったりする。

【言語事項】

- ・物語のおもしろさが構成にもあることを理解している。

(3) 指導にあたって

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

そこで指導にあたっては、成長のきっかけとなる出来事をもとに、太一の成長を読み取らせていきたい。

書く活動では、読みの視点を与え、中心になる文や言葉に対して、それぞれの思いや考えを書き込ませ、さらにその考えを「学び合い」を通して深めていきたい。

このように主人公の生き方や考え方を自分自身に置き換えて読みを深めていくことにより、主題に迫ることができると思われる。

さらに、「命」についての同じ作者の本や他の作品に興味をもつ活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりするために読書する態度を育てることにつなげていきたい。

4 単元の目標

登場人物の言葉や行動から、生き方や考え方を読み取り、「命」について考える。

5 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

- ・文章を読み、人間の生き方や考え方について自分の考えを深めようとしている。

【書くこと】

- ・命について、経験したことや本で読んだことなどをとらえて、自分の考えをまとめて書いている。

【読むこと】

- ・登場人物の生き方や考え方を叙述から読み取る。
- ・自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を読む。

【言語事項】

- ・複数の読み方に気をつけて、漢字を読んだり書いたりする。

6 指導計画（11時間）

6 指導計画（10時間）

指導過程	目標（ ）と学習内容	関	書	読	言	評価方法	指導過程	目標（ ）と学習内容	関	書	読	言	評価方法	
		心	く	む	語				心	く	む	語		
		意	こ	こ	事				意	こ	こ	事		
		欲	と	と	項				欲	と	と	項		
つかむ	全文を通読し、あらすじと構成をとらえて読みの視点をもつ。					ノート 発言	つかむ	全文を通読し、あらすじと構成をとらえて読みの視点をもつ。					ノート 発言	
	全文を読んで、感想を書く。 ・ 題について考える。 ・ 初発の感想を書く。								全文を読んで、感想を書く。 ・ 題について考える。 ・ 初発の感想を書く。					
	新出漢字や語句の学習をする。								新出漢字や語句の学習をする。					
3	感想をもとに話し合い、読みの課題や視点をもつ。 ・ 全文を繰り返し音読する。 ・ 作品のあらすじをとらえる。 ・ 学習課題を設定する。					発言	3	感想をもとに話し合い、読みの課題や視点をもつ。 ・ 全文を繰り返し音読する。 ・ 作品のあらすじをとらえる。 ・ 学習課題を設定する。					発言	
	場面ごとに内容を読み深める。					ノート 発言		ふかめる	場面ごとに内容を読み深める。					ノート 発言
	わらぐつに対するマサエとおばあちゃんの考え方の違いを読み取る。									太一と父のかかわりを読み、海に対する太一のおこがれを読み取る。				
雪げたがほしくてたまらないおみつさんの心の高まりを読み取る。							太一と与吉いさのかかわりを読み、太一が学んだ海の生き方を読み取る。							
6	わらぐつを編むにいたるおみつさんの様子や心の動きを読み取る。						6	太一と母のかかわりを読み、太一の強い決意を読み取る。						
	大工さんの仕事に対する考え方と、大工さんがおみつさんのわらぐつを買った気持ちを読み取る。（本時）							太一と瀬の主とのかかわりを読み、瀬の主に出会ったことによる太一の考え方の変容を読み取る。（本時）						
	わらぐつや雪げたを通しての人物の心の通い合いを読み深める。							学習を振り返り、題名が意味するところ（主題）などについて自分の考えをまとめながら感想を書く。						
ま	おばあちゃんの話聞いたマサエの感動と変容を読み取る。						2	命をテーマにした作品を探して読書し、命ということについて自分の考えを書く。					観察 ノート	
	自分が大切にしているものについて書く。					観察 ノート 作品		ま	作者の作品や「命」をテーマにした他の作品を読む。 ・ 同じ作者のシリーズ「山の命」を読み「命」をテーマとして二つを読み比べる。					
	「優れた表現を自分の表現に生かす」という観点から「わらぐつの中の神様」の描写の仕方を参考にする。									命ということについて自分の考えを書く。				
自分の大切な物についてのエピソードを書いて、家族にあてたメッセージカードを書く。														

7 本時の指導

(1) 目標

大工さんが、おみつさんの不格好なわらぐつをいくつも買った理由を、大工さんの仕事に対する考え方や心から読み取ることができる。

(2) 展開

第5学年

段階	支援(・)と評価( )	学習活動	形態
つかむ 5分	学習課題を把握し、学習の見通しをもつことができたか。 (関心・意欲・態度)	1 本時の学習場面と学習課題を確認する。  大工さんが、おみつさんの不格好なわらぐつをいくつも買ったのはなぜだろう。	
ふか め る 20分	・読みの視点は「大工さんの考えや心」とする。  ・大工さんがおみつさんの作ったわらぐつを買った理由を、わらまんじゅうと言った人と比べて考えさせる。  大工さんの仕事に対する考えや心を読み取ることができたか。(読む)	2 学習場面を音読する。 (P18L1～P23L9)  3 学び合いをする。 ・大工さんがおみつさんのわらぐつを買った理由を考える。  4 一人学びをする。 ・大工さんの仕事に対する考えや心を書き写し、おみつさんの思いと比べながらワークシートに書き込む。	
まと める 20分	・個人の音読練習を経て、ペアで互いに読み合わせる。  大工さんがおみつさんのわらぐつを買った理由を、大工さんの考えや心から読みとり、自分なりにまとめることができたか。(読む)	5 まとめの音読をする。  6 学習のまとめをする。 ・学習したことをもとに、課題のまとめをノートに書く。  7 自己評価をする。	

7 本時の指導

(1) 目標

太一がクエにもりを打たなかった理由を、クエの様子や太一の気持ちから読み取ることができる。

(2) 展開

第6学年

形態	学習活動	支援(・)と評価( )	段階
	1 本時の学習場面と学習課題を確認する。  太一が、瀬の主であるクエにもりを打たなかったのはなぜだろう。	学習課題を把握し、学習の見通しをもつことができたか。 (関心・意欲・態度) ・台本をもとに、一人学びまで学習リーダー中心に進めさせる。	つかむ 5分
	2 学習場面を音読する。 (P14L3～P19L3)  3 一人学びをする。 ・太一がクエを見て思ったことに書き込みをする。  4 学び合いをする。 ・太一はなぜ「泣きそうになったのか」を考える。  5 学び合いをする。 ・太一がクエにもりを打たなかったのはなぜかを考える。	・読みの視点は「瀬の主の様子」「太一が思ったこと」とする。  ・ワークシートの確かめをさせる。 ・太一の葛藤につながる二つの思いについて書き込みをさせる。  ・太一の様子の中でも一番悩んでいる「泣きそうに」に着目させる。 クエを打つことのできなかつた太一の気持ちを読み取ることができたか。(読む)	ふか め る 30分
	6 学習のまとめをする。 ・学習したことをもとに、課題のまとめをノートに書く。  7 自己評価をする。	クエと出会ってから太一の気持ちの変化を読み取り、自分なりにまとめることができたか。(読む) ・まとめの形を示し、自分なりの書き方を加えてよいことを知らせる。	まと める 10分

( 3 ) 具体の評価規準

十分満足できる ( A )	おおむね満足できる ( B )	努力を要する児童への支援	十分満足できる ( A )	おおむね満足できる ( B )	努力を要する児童への支援
大工さんの考えとおみつさんの思いを比べて考え、大工さんの思いについて自分の言葉でまとめている。	大工さんが不恰好なわらぐつをいくつも買ったことについての理由をとらえ、自分の言葉でまとめている。	手がかりになる文や言葉を指し示しながら考えさせる。	描写から読み取ったことを根拠にし、太一の気持ちの変化について自分の言葉でまとめている。	太一がクエをしとめなかったことについての理由をとらえ、自分の言葉でまとめている。	手がかりになる文や言葉を指し示しながら考えさせる。

( 4 ) 板書計画

